



第81回

私のスケッチブック

「繁華街の時計塔」

ルーアン／ノルマンディー地方（フランス）



ルーアンは、ノルマンディー地方の主要都市。セーヌ川のはとりに立地し、水運で発展します。日本からの豪華客船も寄港するとの話です。

パリのサン・ラザール駅から列車で1時間少々ですから、私は再々訪ねる機会に恵まれます。この町の西にフランスを代表するル・アーブル港があり、同業の知人を訪ねる時に途中下車で立ち寄ります。

ルーアン駅から、中心部に向かうジャンス・ダルク通りを下っていくと十数分で市街地です。三角屋根のジャンス・ダルク教会が目飛び込んできます。海の波をモチーフにしたとの話ですが、私の感覚では「鉄兜」にしか観えません。モダンな美しいステンド・グラスと、広々とした礼拝堂に癒されます。1431年にジャンス・ダルクは、この広場で魔女として火炙りの刑に処せられます。そして25年後に復権し、1920年に聖人として列聖されフランスの英雄になります。

週末、広場には沢山の市場が立ち並び、立派なクレソン

が山のように積み上げられ、瑞々しい香りが漂います。ノートルダム大聖堂に向かう通りに、グロ・ゾル・ゾージュと云われる大時計に出遭います。元来は、鐘楼として建てられたのですが、今でも正確に時を告げています。

ノートルダム教会は、クロード・モネが連作を描いて有名。教会の向かい側に位置するブティックから描いたと云われ、今は観光スポットとなっています。サン・マクルー教会周辺の木組みの街並みが素晴らしく、アルザス地方の木組みも良いですが、ノルマンディーの街並みも美しい佇まいを魅せてくれます。

それにしても日本人の観光客に出遭いませぬ。恐らくモンサンミッシェルを訪ねる方々の通過点なのでしょう？パリから日帰りで充分ですから是非訪ねてください。歩き疲れた帰路は駅まで上り坂…。

駅近くの右手にジャンス・ダルクが幽閉された塔があります。列車の時間があれば、休憩がてら立ち寄ってください。

延原 慎吾



1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
2017年開催「第68回 全国カレンダー展」に9度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
<http://www.urban.ne.jp/home/nobu36>

水彩画 延原

検索